

# Principal Correspondence

## 卒業する皆さんへ

今までも段階的に選挙権などは付与されてきましたが、正式に今年の4月より、日本の社会は18歳からが成人になります(ただし20歳まで飲酒,喫煙,公営ギャンブルは認められません)。でも、自分の責任で、クレジットカードを持てますし、結婚も、養子縁組さえできます。



先日、テレビのインタビューで、今年から成人になる若者がこう言っているのを聞いて感心しました。「大人になるということは愛情を受ける側から愛情を与える側に立つということだと思います。その境界を越えたことを成人と呼ぶのだと思います。」

成人して学校を卒業すれば普通自立し、自分で食べていかねばなりません。つまり職業に就くわけですが、人は人生の大半の時間を職業に費やすので、その時間は単にお金を稼ぐだけではなくその人にとってやりがいのある意味のある時間であることが理想です。

人は「何をやりたいのか?」という目標をもって生きることがとても重要です。多分「こういうことをやりたい。」と目標をもつ人は、それが好きで、仕事での苦労も苦労と思わず、失敗しても何度でも挑戦し、自分の可能性のために働くから結果、成功する確率も高いのです。

しかし、「やりたいことがわからない」という人が多くいることも確かです(かなり多くの方は自分探しの旅を続けるものです)。その時は、まず、「やりたいことを自分の得意なこと」の中で探してみましょう。得意なことは、好きなことより現実的に職業に結び付きやすい。さらに、「こういうことをやりたい」という自分の個人の楽しみだけを追わず、視野を広げて「社会のために」「人類のために役立つこと」を考えてみることも大切です。

卒業する皆さんはこれからそれを探す旅が始まります。大学を選ぶころまでに一回目標を立てられると良いと思います。さらに、やりたいことは人生の途中で変わるかもしれません。それは全く問題ありません。いくつになっても勉強をし直してよいのです。人生は死ぬまでチャレンジ。世の中には70歳から英語を勉強して塾を開いたおばあさんもいます。



チャレンジする人は多分「自己肯定感」が高い人だと思います。すぐに困難にぶつかってあきらめるのではなく、「努力を続ければ何とか必ず道は開ける」と信じている人です。「自己肯定感」は幼少期からの

小さな成功を積み重ねることで醸成されるといわれます。がんばって「やったー!」という経験を積み重ね、周りから認められる体験が大事です。学校生活では体育的活動は比較的自己肯定感を高めるのに良い活動といわれています。もちろん演劇でも!

コロナ禍の今年にあって、運動会も、マラソン大会も、ドッジボール大会も、クリスマスアッセンブリーもリリーベールが何とか工夫して実施してきたのは、そのためです。

卒業する皆さん!リリーベールは皆さんの心の故郷です。基礎はできました。ここで体験して学んだことは、必ず次のステージで生きてきます。

がんばれ卒業生!世界は君を待っている。卒業おめでとう!

# Principal Correspondence

## 21世紀型能力の前に



よく21世紀型学力という言葉が聞かれます。  
OECD(簡単に言えば先進国クラブ・34カ国加盟)  
の提唱するPISA(Program for International  
Student Assessment)とよばれる国際学習到達度  
調査です。加盟国の15歳を対象に3年ごとに読解力, 数学  
的リテラシー(応用力), 科学的リテラシーを調査しています。

荒っぽい要約ですが, 21世紀型学力とは, 今までの受験勉強のような暗記力や, 与えられた問題を解く能力ではなく, ①課題そのものを発見し, 設定する能力「問う力」。②さらに自分でリサーチして調べる力, または「解決策を見出す力」。③それを表現し周囲の人に伝え共有するコミュニケーション力, あるいは「プレゼンテーション能力」を言います。最近茨城県の県立中学校の共通入学試験では「適性検査」と称してこの学力を問うています。

20年ほど前, ゆとりの時間を作って文部科学省はPISA型学力を伸ばそうとした?ののですが, 見事に失敗をしました。私が考える失敗の原因は下記のとおりです。

①基礎学力がない(つまり学力の低い子)に, 創造性を発揮して調べたり解決策を見出したりすることを求めるのは難しい。まず「読み書きそろばん」の基礎は詰め込むべき(ゆとり教育は成績優秀な子には有効だが成績のばらつきがあるところでは効果が薄いのです)。

②「問い」に気づくには, 幼少期に座学ばかりでなく, 実体験を多く積ませて感性豊かに育てておかなければならないこと。

③宿題を自主的にやるとか, 夏休み自由研究に取り組むなどの自己学習の習慣は3年生までに徹底しておく。

学童保育ではできるだけそこを配慮していますが, 『育脳学童』は学習塾ではありません。学校や, 塾でもできない部分を埋めていく教育の場と考えています。